

平成29年度 看護ハナマル先生による 模擬授業が行われました！

一般社団法人日本看護学教育学会は、看護学生さんからの推薦を受けて、平成29年度の看護ハナマル先生を選出しました。看護ハナマル先生には、沖縄で開催された日本看護学教育学会第27回学術集会（平成29年8月18日）にて模擬授業を行っていただきました。



看護ハナマル先生に選ばれた 山口みのりさん(神奈川県立保健福祉大学)が、清潔行動に関する模擬授業を行いました。



山口みのりさんから会場に向けて、「日頃あなたがやっている清潔行動にはどんなものがありますか」と発問が投げかけられました。



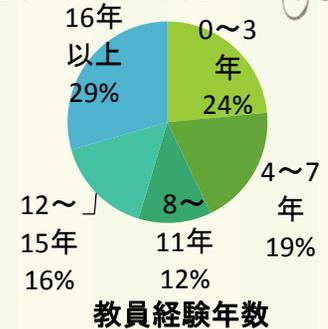
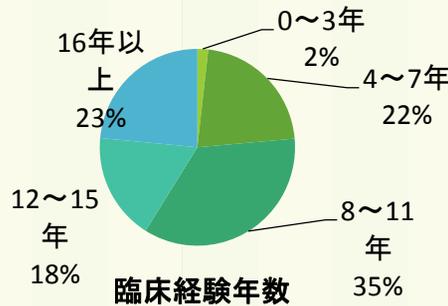
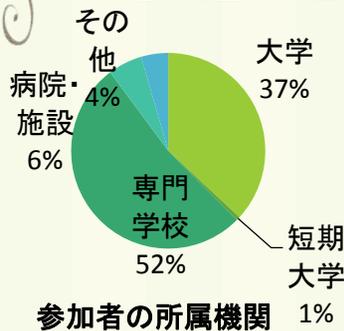
模擬授業の後、教育の専門家である新井英靖氏(茨城大学教育学部 准教授)から「日常と学問の『あいだ』を探る授業構成、発問の仕方ともに大変よかった」と講評をいただきました。



山口みのりさん(中央)には、佐藤紀子理事長(左側)から感謝状が送られました。推薦者の大澤さん(同大学3年生、右側)と一緒に記念撮影を行いました。

会場参加者からのアンケート結果

会場のみなさんからたくさんの意見・感想が寄せられました。
 参加者数324名 アンケート回収数176枚 回収率54.3%



【Q1 看護ハナマル先生模擬授業を通して学んだことは何ですか？ 自由記述】

理論と実践の往還の意義	<ul style="list-style-type: none"> 理論と実践の往還について学ぶことができた(4件) ナラティブな自分の語りから理論へつなげていく(2件) ナイチンゲールやヘンダーソンの理論による現象の意味づけの導入(2件) 全てを一体化して理解を促すこと
学生への発問の仕方	<ul style="list-style-type: none"> 学生が緊張せずに、考え・発言できるための工夫(2件) 学生を尊重した授業の展開(2件) 学生への問い方、タイミング 学生を参加させる方法 学生の日常の体験の取り入れ方や生活レベルに落とし込んでいくこと 学生に近づいてから専門へ引き込む方法
自己体験の教材化	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活から教材を探し、意味付けしていく大切さ(3件) 自分の体験を話し、そこに学生の思いを引き出す(2件) 授業の中でどのような事例を入れていくか、教材の意義を再認識できた(2件) 講師の実体験から倫理面も考えられ「清潔の援助」だけでなく幅広い内容だった
教員が理念・哲学を持つ	<ul style="list-style-type: none"> 学生に何を学ばせたいのか、何を伝えたいのかをしっかりと持つこと(4件) 先生の看護観、学生観、教育観が深くそれにもとづいて準備されていること
学生の学びの強化	<ul style="list-style-type: none"> 学生同士の学びの確認の必要性を再確認できた(2件) 授業最後の5分間で、学生が自分の学びを言葉にする機会を持つことの効果 授業ごとに繰り返すことで患者に伝えることの技術もアップしていく
授業構成の工夫	<ul style="list-style-type: none"> 温める、動くなど援助の根本や目的は何かから分けた教え方 授業構成 知識、体験、技術、患者の思いをバランスよく構成
授業方法の工夫	<ul style="list-style-type: none"> スライドの作り方・使い方 区切りのタイミングとつなぎ

【Q2 あなたが授業で取り入れたいことは何ですか？ 自由記述】

- 自分の体験を授業に生かすこと
- 事例を題材に学生に考える時間を作り、理解を深めさせること
- 導入とまとめで学生に発問し、考えさせる
- 講義の間、節目で2分程度時間をとって聞いた知識を理解したり、他との意見交換
- 最後の学生同士振り返る時間を作ること
- 学生が緊張しないように、学生が本音で発言できるような聞き方
- 対話形式のスライド

回答のご協力、ありがとうございました。

日本看護学教育学会では、次年度も引き続き看護ハナマル先生を募集します。看護学生のみなさんからの推薦をお待ちしております。

一般社団法人 日本看護学教育学会 教育活動委員会
 委員長 前田ひとみ
 委員一同